

象や海洋の状況の変動がエルニニョの様にグローバルな気候変動と深く関連していることが分ってきた。そこでインドネシアで大気観測をすることは大きな意義を持つ。

著者は赤道域大気の解明のために赤道レーダの建設を広い国際的支援の基に計画している。IUGG (国際測地学・地球物理学会) は1982年の総会で赤道レーダ建設の

勧告を出している。これは MU レーダの約10倍の規模のシステムを建設し地上より超高層までの大気の動きを一分の分解能で一気に測定しようとするものである。将来、この強力な設備を中心にした国際赤道大気研究所が日本の力で実現できることを切に願っている。地球環境問題解明に対する日本のユニークな貢献ともなるであろう。

平成元年度「気象研究所研究発表会」のお知らせ

日時：平成元年11月29日(水) 9時30分～17時

場所：気象研究所講堂

問合せ：企画室、手塚 ☎ 0298-51-7111 (内 204)

プログラム：

09:30～09:35 あいさつ(岡村 存 気象研究所長)
《座長：台風研究部長》

09:35～10:00 梅雨前線上のじょう乱の振舞と構造
*秋山孝子(予報研究部)

10:00～10:30 成層圏の季節変化の数値実験
*柴田清隆, 千葉 長(気候研究部)

10:30～11:00 北半球冬季中・高緯度対流圏における波動・平均流相互作用の解析的研究
*佐藤康雄(気候研究部)

《座長：気象衛星・観測システム研究部長》

11:00～11:30 日本付近における対流圏エロゾルの観測

*池上三和子, 財前祐二
(物理気象研究部)

11:30～12:00 サブミクロン・エロゾル粒子の Nucleation Scavenging について

*岡田菊夫, 田中豊頭, 成瀬 弘, 吉川友章(応用気象研究部)

—【昼食】—

《座長：海洋研究部長》

13:00～13:40 台風域内の非対称構造

*岡村博文(台風研究部)

13:40～14:20 台風の非対称構造から生じる中心の移動に関する研究

*大西晴夫(台風研究部)

《座長：物理気象研究部長》

14:20～14:45 一次散乱近似により求められる日本における地震波減衰の地域性

*後藤和彦, 千場充之(地震火山研究部)

14:45～15:00 地震波減衰における多重散乱の影響

*千場充之, 後藤和彦(地震火山研究部)

—【休憩】—

《座長：気候研究部長》

15:20～15:50 太平洋における海洋特性量の分布と海洋大循環

*周東健三(海洋研究部)

15:50～16:30 海底設置型ドップラー多層流速計による海流観測

*四竈信行, 佐野 昭, 周東健三
(海洋研究部)

16:30～17:00 海洋の炭素循環における溶存有機炭素の役割

*杉村行勇, 鈴木 款(地球化学研究部)

閉会のあいあつ(椎野 企画室長)

【懇親会】 (*印は、発表者)